

授 業 科 目 名	スポーツ指導実習 (生涯スポーツ指導実習) (I41C0-6201)			授業形態	実習	授業科目区分	専攻科目 (指導実践科目)			
担 当 教 員 名	前田 (博) 、中垣内、沼尾、北村、坂口				補助担当者名					
単 位 数	1単位 (1週間) 又は 2単位 (2週間)	履修年次	3年次		受け入れ人数					
授 業 の 概 要	本実習では、将来のスポーツ指導者としての専門職に必要な理論の学習を基礎に、さらに、より実践的な指導力を育成するため、各専門領域に関連する実際のスポーツ指導現場での指導実習を実施することとしています。そこでは、実際のスポーツ現場における指導実習や生の体験を通して、学生の専門的な知識や指導技術を高め、ひいては本学内における学生の教育・研究内容へフィード・バックさせることを主な目的としています。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	到 達 目 標				成 績 評 価 の 方 法					
					授 業 期 間			定期 試験	そ の 他 ()	割合 (%)
	授業	テスト	レポート	発表						
	■ 認 知 的領域	・ 訪問先の選択及び施設等研究を行う(施設等研究の作成). ・ 指導体験を記述・説明する (実習日誌の作成) . ・ 指導体験を分析・評価する (所感文等の作成) .					○		大学 評価	20
	■ 情 意 的領域	・ 事前の訪問先の選択、施設等研究、実習準備を主体的、積極的に行うことができる. ・ 指導体験を主体的、積極的かつ協力的に取り組むことができる. ・ 実習後に指導体験について真摯に振り返ることができる.			○				大学及 び実習 先評価	60
■ 技 能 的領域	・ ビジネスマナー及び一般常識を身につける. ・ 指導対象との円滑なコミュニケーションを行うことができる			○				実習先 評価	20	
成績評価の基準	設定された指導体験の日数に参加することを条件に、事前準備や施設等研究、実習日誌、事後報告や所感文及び実習先の評価の各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。									
テキスト、教材 参 考 書	①本学作成の「スポーツ指導実習の手引き」をWebClassを用いて配布。 参考図書は、授業時に推薦する。									
履 修 条 件 ・ 関 連 科 目	○スポーツ学総論（2単位）を修得していなければならない。 ○「生涯スポーツ論・演習Ⅰ」「生涯スポーツ論・実習Ⅱ」及び「生涯スポーツ論・演習Ⅲ」を履修しなければならない。			備考（教員メッセージ含む）	本実習は、原則として夏期休業中の1週間又は2週間とし、履修可能単位数は2単位（1単位最低5日間）、1単位だけ履修する場合は1週間（最低5日間）を2回実施します。また、実習に関するガイダンスを2年次の後期に行うと共に、実習先の選考・認定等を行います。詳細は「体育学部履修要項」、2年次後期のガイダンス等で確認してください。					
オフィス・アワー	各担当教員の研究室において、随時（月～金、9:00～17:00）。									
授 業 計 画										
回	授業担当者	授 業 内 容				授 業 時 間 外 の 指 導 等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	前田 (博) 、中垣内、北村、 坂口	【事前学習】				①WebClassにより復習 ②実習先研究レポートの作成 ③事前準備の資料等作成 ④WebClass により復習 ⑤実習日誌の作成 ⑥所感文の作成 ⑦発表資料の作成 ⑧WebClass により復習				
2		① オリエンテーション：生涯スポーツ指導実習の意義・目的・内容								
3		② 訪問先の選択及び施設等研究								
4		③ 事前準備（履歴書の作成、挨拶状の作成、実習計画の作成：課題設定等）								
5		④ 生涯スポーツ関連講師による講和とレポート								
6		【実習活動】								
7		⑤ 生涯スポーツ指導実習（2単位：2週間）								
8		【事後学習】								
		⑥ 生涯スポーツ指導体験の分析・評価及び今後の展望								
		⑦ 事後報告①（生涯スポーツ指導体験の発表会等）								
		⑧ 事後報告②（生涯スポーツ指導体験の発表会等）								